

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

おさいほうが大好きな人間の女の子ナナは、おさいほうの仕事をしている魔女のシルクのとこ
ろで、めしつかい猫のコットンとお手伝いをしています。

お直しでは、その注文によってとくべつな材料がいりようになることがよくあります。そんなとき
には、そのたびに材料を買いにいかなくてはなりません。それでも大いそぎの注文にそなえて、リ
フォーム支店にはいつでもいろいろな材料がそろえてありました。

ナナがコットンのノートをのぞきこむと、そんな材料のリストが（a）ならんでいます。中に
は不思議な名前のものや、おもしろそうなものもたくさんありました。そういう材料をみつけるたび、
ナナの目はかがやきます。そんなナナの目が、ある「ボタン」でぴたりとまりました。

『光のボタン』……？ このボタン、ずっと0個のままだわ』

すると、コットンはいいづらそうにうつむきました。

「ええ、ナナさま。このボタンはリフォーム支店ではもう長いこと在庫切れのまま、仕入れていない
ボタンでございまして……」

そのことばかり、リストのボタンのらんには、もうずっと前から「0」の数字がかきこまれたま
まになっているようです。

「どういうボタンなの？ コットン」

A

と、こんどはほうつとため息をつくコットンに、ナナは首をかしげました。

B

そうたずねられると、コットンはまたうつむいてしまいます。そしてすこし間をおいてから、小さ
な声で、みじかくこういいました。

C

それきりコットンがだまってしまうと、シルクがいらいらとした調子で腕をくみました。

「光の魔女はいやなヤツなのよ。わたしたち、もうずっと『絶交』しているの。そんな魔女のところ
へボタンを買いにいけるとおもって？」

「絶交ですって?!」

ナナはおもわずさげびました。

「絶交」したら、もう二度とおたがいにはなすこともありません。それどころか、目の前に相手がい
ても、まるでいないかのように無視したりしなければならいのです。けんかはだれだっていますが、
「絶交」をする人をナナはまだ見たことがありませんでした。

「たとえばれとでも、『絶交』なんてよくないとおもうわ、シルク」

ナナがそういつても、シルクはすずしい顔です。

そんなシルクに、ナナはこうすすめました。

「ねえ、シルク。もう一度光の魔女カンデラとはなしてみたら？」

すると、コットンもじっとシルクをみあげます。

「さようでございます、シルクさま。カンデラどのと仲直りなさいませ。そうしなければ、このとお
り『光のボタン』の在庫はずっと0個のままでございますよ」

国語 (二まいめ)

するとシルクは、コットンのことをぜんぶききおわらないうちに、(b)したようすで首をよこにふりました。

「たとえば世界がひっくりかえったって、『仲直り』なんてごめんだわ!」

そのようすをみて、ナナとコットンはためいきをつきました。シルクはおさいほうのことなら、どんなことでもだれよりもじょうずにできます。でもおさいほう以外のこととなると、あまりうまくできないことも多いのです。にがてな人とよくしりあって仲良しになったり、一度けんかした相手と仲直りすることも、シルクにとってはとても、にがてなことのひとつでした。

コットンもナナも、そのことをよくしっていたので、おもわず顔をみあわせました。

「やれやれ、こまったものでございます。『光のボタン』が必要な注文がこないことを祈るばかりでございますね」

「そうね、コットン」

ナナはうなずきながら、光の魔女のことを想像しました。

(光の魔女って、どんな魔女かしら? きらきらかがやいて、まぶしいほどの美しい姿? それとも……)

ナナはそのことをたずねてみたいとおもいましたが、そうしませんでした。シルクは、これ以上光の魔女について話をするのさえ、いやそうな顔をしていたからです。

と、そのとき。リフォーム支店のドアをたたく音がきこえてきました。

「おや、おきやくさまでございます」

コットンは赤いドアを優雅にひらくと、おきやくさまを店にまねきいれました。

「いらっしやいませ、おきやくさま」

やってきたのは、ほっそりとした背の高いおきやくさまでした。長いコートを着たそのおきやくさまがあるくたび、からだから小さな虹色の光のつぶが(c)まいてびます。その光や真っ白な肌、むらさき色にかがやく髪をみて、ナナはこのおきやくさまがなにかの「精霊」だとすぐにわかりました。

「あなたは、『虹の精』ね」

シルクがそういうと、精霊は小さくうなずきます。

虹の精がからだをうごかすたびに、美しい小さな光のつぶがまいてぶので、ナナはうっとりとなりました。でも、虹の精は元氣のないようすです。

「お洋服のお直しの注文でございますか? 虹の精どの」

コットンがやさしくたずねると、虹の精はまたうなずいて、着ていたコートのボタンをはずしはじめました。

すると、ボタンをひとつはずすたびに、虹の精のまわりをとりまいていた光がうすれていくのがわかりました。

(まるでこのコートが、精霊の不思議な力のもとになっているみたい)と、ナナはおもいます。そしてそのとき、虹の精のコートのボタンが、ボタンをとおす穴、ボタンホールの数よりずっとすくないことに気がつきました。五個めのボタンをはずすと、コートにはもう一個もボタンはありません。

「まあ! ボタンホールは一〇個あいているのに、コートについているボタンは五個だけだわ」

ナナのそのことばに、虹の精ははずかしそうにうつむくと、ボタンがとれたあたりを手でさすりました。

「そうなの。どこかにひっかけてしまったのか、糸がゆるんでいたのかわからないけれど、はじめにひとつとれ、そしてまたいつのまにかひとつとれ……。それでもコートを着ることはできたから、い

国語 (三まいめ)

つかお直しにだそうとおもって、そのまま着ていたのよ。そうしたら、とうとう半分のボタンがとれてしまったの。一〇個のボタンのうち、残っているのは五個だけ」

それから顔をあげると、シルクをみつめました。

「どうかこのコートをお直ししてくださいな、おさいほう魔女のシルク」

おきにいりの服でも、一個ボタンがなくなってしまうとたいへんです。それがどこにでもあるようなボタンにみえても、まったくおなじものとなると、なかなかありません。それが精霊が着ているようなとくべつなお洋服なら、なおさらのことでした。シルクにわたすために精霊がコートをぬぐと、精霊をとりまいていた虹色の光が、またぐっとうすくなくなります。そのような不思議そうにながめるナナに、コットンがそっとおしえてくれました。

「たいていの精霊は、自分のお役目にピッタリな力をひきだしてくれるドレスを身につけているものでございます。虹の精どのは虹を作るのがお役目でございますから、このコートがないと虹色の光のかがやきも、よくなるのでございましょう」

「どうやら虹の精にとって、このコートはとてもたいせつなもののようです。そんなコートをさしたされた①というのに、なぜかシルクはなかなかうけとろうとしませんでした。」

「さあ、コートを^{はけん}拝見いたしましょう。虹の精どの」

とうとうコットンがそういって、シルクのかわりにコートをうけ取りました。コートをのぞきこんだナナは、そこについている五個のボタンに目をうばわれます。

それは、光をうけたプリズムをそのままボタンにしたような……、まるでゆらゆらとかがやく虹をふうじこめたようなボタンだったのです。「なに色」とはいいいいような美しい色にかがやいています。うっとりとするナナの耳元で、またコットンがささやきました。

「ナナさま。これこそが『光のボタン』。その中でも最も価値^{かち}のある『プリズムのボタン』でございますよ」

「これが『光のボタン』……」

そうつぶやいてから、ナナははっとなりました。シルクがコートをうけとろうとしなかった理由がわかったからです。

もしこのお直しをひきうければ、たりなくなったボタンを仕入れにいかなくてはなりません。それは、絶交している「光の魔女」にあうということ。シルクのいちばんにがてなことのひとつ「仲直り」をすることでした。そして、シルクは、ナナがおもっていたとおりのことをいったのです。

「ざんねんだけど、このお直しはおひきうけできなくてよ、虹の精」

「……でございますね、シルクさま。まことにもうしわけございません。虹の精どの」

コットンがもうしわけなさそうにかえそうとするコートを、ナナがよこからひっぱりました。

「そんなのダメよ！ 虹の精がこの店をみつけれなかったっていうことは、シルクのお直しが、必要だったことですよ？」

リフォーム支店には、ご用のある人がご用のあるときにだけ、たどりつける魔法^{まほう}がかかっています。ナナにそのことをいわれて、シルクは肩^{かた}をすくめました。

「でもナナ。このコートはだいぶ古びているわ。だからお直しするより、いっそ、あたらしいコートを仕立てたらどうかしら。お仕立て魔女のエステルにたのめば、いまのなん倍もりっぱなコートを仕立ててくれてよ、ナナ」

「いいえ！ エステルが仕立てるドレスはたしかにすてきだけど、シルクがお直しした方が、ずっとすてきなコートになるわ」

ナナにハッキリそういわれると、シルクは目^③を丸くして、つぎにほおをピンク色にそめました。そ

国語 (四まいめ)

して、そのままだまってしまったのです。それをみてコトンは、にっこりと虹の精をみあげました。「虹の精どの。ご注文はたしかにおひきうけいたしました。ですが、デザインがきまってリフォームをはじめるまで、このコートはいったんおかえしすることにいたしました。虹の精どののお役目には、このコートが必要でしょう」

「ええ、コトトン。そのとおりなの。ありがとう」

虹の精はコートをほり直すと、ホツとしたようすでリフォーム支店のドアを開けました。

「では、おさいほう魔女シルク。デザインができたころ、また四日後にまいります」

シルクはしびい顔で小さくうなずいて、虹の精をみおくります。

(あんびる やすこ『なんでも魔女商会 おきやくさまはルルとララ』より)

(注) いりよう……………必要とすること。

リフォーム……………衣服を作り直すこと。

精霊……………さまざまな力を持つ自然の中のふしぎな存在。

拝見……………「見る」のていねいな言い方。

プリズム……………ガラスでできた三角形の柱でそこを通る光がさまざま
な見え方に変化するもの。

お仕立て……………新しく布から服を作り上げること。

(1) ①の文章中の (a) (c) に入ることばの組み合わせとしてよいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|
| ア | a | びっしりと | b | ふわっと | c | キツパリと |
| イ | a | びっしりと | b | キツパリと | c | ふわっと |
| ウ | a | ふわっと | b | キツパリと | c | びっしりと |
| エ | a | ふわっと | b | びっしりと | c | キツパリと |

(2) ①の文章中の A C に入る会話文としてよいと思われるものを、次のア～ウから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 「このボタンをお作りになれるのは、ただひとり。光の魔女カンデラとのだけでございまして……ええ……」
- イ 「光のボタンは、その名前どおり、光で作られたボタンでございます、ナナさま。いろいろな種類がございますが、それは美しく、みているだけでもうっとりいたします」
- ウ 「そんなにきれいなボタンなら、どうしてそろえておかないの？」

(3) ①の文章中に——線部①「なぜかシルクはなかなかうけとろうとしませんでした」とありますが、なぜシルクはコートをうけとろうとしなかったのですか。その理由としてよいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア お役目にふさわしい力を引き出すコートを直す代金を虹の精がもっていなかったから。
- イ 虹の精のコートの『プリズムのボタン』が最も価値があるのでなくしてはこまるから。
- ウ 虹の精にとって大切なコートのボタンを付ける系が簡単には見つからないと思ったから。
- エ コートを直すために絶交している光の魔女と「仲直り」をしなければならぬから。

国語 (五まいめ)

(4) ①の文章中に――線部②「そのこと」とありますが、「そのこと」の内容として、よいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア あたらしいコートを仕立てたほうがより素晴らしいコートができあがるということ。

イ シルクのお直しが必要だから、虹の精がこの店にたどりつけたということ。

ウ お直しをひきうけることで仲のよかった光の魔女に会いに行けるということ。

エ 古びているコートをそのまま直さずに着続けたほうがいいということ。

(5) ①の文章中に――線部③「シルクは目を丸くして、つぎにほおをピンク色にそめました」とありますが、その時のシルクの気持ちをセリフにして二十字以内で答えなさい。ただし、句読点や記号も一字として数えます。

(6) ①の文章の内容として、よいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 『光のボタン』が在庫切れなのはシルクが『虹の精』と『絶交』しているからだ。

イ ナナは『虹の精』のコートをお仕立て魔女エステルに仕立ててもらった方がよいと思っている。

ウ ナナのアドバイスでシルクは『虹の精』のコートを直すことをしぶしぶ引きうけた。

エ コットンが強く反対しているのでシルクは『虹の精』のコートを直すことをためらっている。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A

まずは昼間の空を見上げてみましょう。空が晴れていれば、まぶしい太陽が輝いているはずですが、でも、太陽の光はとても強いので、太陽をじかに見ると目を痛めてしまいます。かならず「日食メガネ」など専用の器具を通してみてください。

太陽がこれほどまぶしく輝くのは、太陽がみずから燃えている星だからです。そうした星を恒星といいます。太陽が作る熱や光は、一億五千万キロメートル（時速二五〇キロメートルの新幹線で行くと約七十年かかります！）も離れた地球を温め、人間やほかの動物や植物が住める世界にしてくれています。

もし太陽がなかったら、地球はマイナス二百度以下の氷の世界となり、生命が誕生することはなかったでしょう。

太陽の光には色がなく、透明に見えているので「白色光」とよばれます。でも、本当に色がついていないわけではありません。その証拠に、プリズムというガラスでできた三角形の柱に太陽の光を通してみます。【 】、光が赤や黄色、緑、青、紫など虹の七色のように分かれます。

太陽の光には、じつはさまざまな色の光が含まれていて、それが混ざると人間の目には色がないように見えるのです。

雨上がりの空に見える虹は、空気中の雨粒がプリズムのかわりをして、太陽の光を分けることで作られます。分けられた七色の光は「円」の形になるのですが、その一部が地面の下に隠れるので、「架け橋」のような形に見えるのです。

B

太陽は朝になると東の方角からのぼり、南の空を通過して、夕方には西の方角へ沈みます。これを普通に考えると、太陽が私たちの住む地球のまわりを動いているように思えます。でも動いているのは太陽ではなく、じつは地球の方です。

(ア)
(イ)

① 遊園地のメリーゴーランドに乗っていると、まわりの景色は自分の動きと逆向きに動いているように見えます。これと同じで、太陽が東から西へ動いて見えるのは、地球が西から東へ回転しているためです。地球は宇宙の中で、北極と南極を結ぶ線(地軸)を中心にして、コマのように一日に一回くると回転しています。これを地球の自転といいます。

(ウ)

「地球が太陽のまわりを回っていることを、日常生活の中で確かめる方法はありませんか？」と質問されることがあります。でも残念ですが、簡単に確かめる方法はありません。

(エ)

C

晴れた日に外でサッカーボールを持って立つと、ボールの丸い影が地面に映ります。サッカーボールの影の大きさは二十センチメートルほどですが、直径百キロメートルほどの巨大な丸い影が地球に落ちることがあります。それは月の影であり、影の中にいる人からは太陽が見えなくなります。太陽が月に「食べられた」ように見えるので、これを日食といいます。

月は地球のまわりを回っている星(衛星といえます)です。月の直径は太陽の約四百分の一しかありません。でも太陽は月よりも約四百倍遠いところにあるので、見かけの大きさはほぼ同じです。そのため、太陽と月と地球が一直線に並ぶと、太陽が月に隠されて地球から見えなくなり、日食になるのです。

「夜空に見える月が、なぜ太陽を隠せるの？」とふしぎに思うかもしれません。じつは月は、昼の青い空にも見えることがあります。でも太陽の光が強いので、白くぼんやりとしか見えず、月が出ていると気づきにくいのです。ふだんは月と太陽の位置は離れています。が、ごくたまに月と太陽の位置がぴったり重なって見えることがあり、この時に日食が起こります。

日食になると、太陽は少しずつ月に隠され、丸いあんパンをかじっていくような形で細くなってきます。そして月が太陽を完全に隠してしまった状態を皆既日食といいます。このとき、空は夜のようになり、太陽のまわりにある「コロナ」という超高温のガスが輝いているのが見られます。

皆既日食の始まりと終わりの瞬間に、月の縁から太陽の光がこぼれるように輝く「ダイヤモンドリング」は息をのむ美しさです。

一方、月の見かけの大きさが太陽よりも少し小さいときには、月が太陽の全部を隠せずに、太陽の外側がユビワのように光る金環日食が起こります。

地球のまわりを回る月のコース(軌道)はきれいな円ではなく、少しつぶれた形(楕円)になっています。そのため、地球と月との距離はいつも同じではなく、少し近づいたり遠ざかったりします。月が地球から少し遠ざかっている時には、その分、月が小さく見えるので、金環日食になります。リング状になっても太陽はとても明るいの、金環日食のときは空はそれほど暗くなりません。

また、皆既日食や金環日食にはならず、月が太陽の一部分だけを隠して終わってしまうものを部分日食といいます。皆既日食や金環日食が見られるのは、地球上の幅約数十キロメートルの帯のような範囲ですが、同じときに部分日食が見られるのは地球上のかなり広い範囲になります。ときには、皆既日食や金環日食にはならず、部分日食だけが見られることもあります。

国語 (七まいめ)

D

大昔は、日食は不吉な出来事が起きる前ぶれではないかと恐れられたこともありましたが、でも現在では、日食のしくみは天文現象として正しく理解され、日食がいつ起きるかを事前にきちんと**ヨソク**できます。

日食は地球上のどこかで年に二〜三回ほど起きますが、皆既日食や金環日食になるのは一〜二年に一回ほどで、しかもそれを見ることができるのは細い帯状の地域に限られます。日本のどこで部分日食が見られるのは数年に一回、皆既日食や金環日食が見られるのは十年から数十年に一回ほどです。二〇一二年五月二十一日の朝に起きた金環日食は、日本列島の広い範囲で見ることができたので、金色のリングになった太陽の姿に歓声をあげた方も多いことでしょう。

次に日本で金環日食を見ることができるのは二〇三〇年六月一日（北海道）、皆既日食は二〇三五年九月二日（茨城県と石川県を結ぶ一帯）、部分日食は二〇一六年三月九日（日本全国）になります。

（佐藤 勝彦『大人も子供も夢中になる はじめての宇宙の話』より）

（注） 日食メガネ……………目を痛めずに日食を見られるよう、工夫したメガネ。
リング状……………わのように丸くなっている状態。

（１） ②の文章中の【 】の中に入れるとよいと思われるものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ でも ウ または エ すると

（２） ②の文章中に——線部①「遊園地のメリーゴーランドに乗っていると、まわりの景色は自分の動きと逆向きに動いているように見えます」とありますが、「まわりの景色」に例えられているものは何ですか。よいと思われるものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 太陽 イ 地球 ウ 南極 エ 北極

（３） 次の文章は本文からぬき出したものです。この文章が入るのに適切な場所は、本文中の（ア）〜（エ）のどこですか。よいと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

また、地球は自転しているだけでなく、太陽のまわりを一年かけてぐるっと動いています。この動きを公転といいます。昔の人は「太陽が地球のまわりを回っている」と考えていましたが、本当は逆で「地球が太陽のまわりを回っている」のです。

国語 (八まいめ)

(4) ②の文章中に述べられている三種類の日食について表にまとめました。表の中の(1) (3)に入ることばの組み合わせとして、よいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

日食の種類	太陽の隠れ方	見られる範囲	日本でどれくらい見られるか
(1) 日食	外側が隠れない	幅数十キロメートルの帯のような範囲	十年から数十年に一回ほど
(2) 日食	一部分だけ隠れる	地球上のかなり広い範囲	数年に一回ほど
(3) 日食	完全に隠れる	幅数十キロメートルの帯のような範囲	十年から数十年に一回ほど

- ア ①…皆既 ②…金環 ③…部分
- イ ①…皆既 ②…部分 ③…金環
- ウ ①…金環 ②…部分 ③…皆既
- エ ①…金環 ②…皆既 ③…部分

(5) ②の文章中の「A」には、次の①～④の見出しが入ります。それぞれに入る見出しの組み合わせとしてよいと思われるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 太陽と地球、動いているのはどっち？
- ② いろんな種類の日食はどうして起こる？
- ③ 次に日食を見ることができるのはいつ？
- ④ 太陽の色は何色？

ア ①

イ ④

ウ ②

エ ③

ア ④

イ ①

ウ ③

エ ②

ア ②

イ ③

ウ ①

エ ④

ア ③

イ ②

ウ ④

エ ①

(6) ②の文章中の「線部a」「ユビワ」、b「ヨソク」をそれぞれ漢字に直しなさい。

